

# 法務総合研究所研究部報告

## 5

### —諸外国における少年非行の動向と 少年法制に関する研究—

はしがき .....	河 内 悠 紀...	i
アメリカにおける少年非行の動向と少年司法制度 .....	安 東 美和子...	1
	松 田 美智子	
	立 谷 隆 司	
連合王国の少年非行の動向と非行少年処遇 .....	浜 井 浩 一...	53
	横 地 環	
ドイツの少年司法制度及び少年非行の現状 .....	長 島 裕...	101
	橋 本 三保子	
フランスにおける少年非行の動向と少年法制に関する調査 .....	生 島 浩...	151
	中 野 陽 子	
韓国の少年非行 .....	福 田 美喜子...	165
	松 野 孝 治	
	栗 栖 素 子	

1 9 9 9

法務総合研究所

## は し が き

この研究部報告第5号は、法務総合研究所研究部が平成10年度に実施した「非行少年の審判及び処遇に関する総合的研究」のうち、諸外国（アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス及び韓国）の少年司法制度及び少年非行の現状についての研究調査結果をとりまとめて刊行するものである。

我が国では、戦後、昭和26年、39年及び58年の三つのピークを経て、59年以降減少傾向にあった少年刑法犯検挙人員が、平成8年からは増加に転じており、中でも、凶悪・粗暴事犯及び覚せい剤事犯が著しく増加しているほか、集団による非行、非行歴のない少年による非行の増加傾向も認められる。また、最近の少年の特性についても、規範意識や対人関係の希薄化、抑制力の不足と短絡的な行動傾向等が指摘されており、少年非行問題は、現下の刑事政策上の最も緊要な課題の一つであるとされている。

一方、我が国では、戦後間もなくの昭和23年に現行少年法が制定・公布され、少年刑事司法法制に関する大改革が行われたが、近年、現行少年審判制度における事実認定手続の在り方が各方面から問われるようになり、制定後約半世紀の間、実質的改正を見ることがなかった少年法についても、同法改正をめぐる議論が活発化している。

このような状況を踏まえ、「非行少年の審判及び処遇に関する総合的研究」においては、最近における我が国の少年非行の動向、特質及び背景を明らかにし、非行少年に対する処遇の実情を紹介し、これらの問題点を探るとともに、諸外国の少年非行の動向及び少年司法制度を概観することとしたものであるが、本報告において紹介している諸外国の少年司法制度及び少年非行の現状についての研究調査は、その一部である。諸外国の少年非行の動向や少年司法制度を概観し、これと我が国のそれとを比較することは、今後の我が国における少年非行対策を検討する上でも有益であり、これが、各方面でなされている少年非行をめぐる議論に何程かの寄与をなし得るとすれば幸いである。

終わりに、本研究調査に当たって御協力をいただいた在外の大使館・領事館の関係者各位を始めとする関係機関及び関係者の方々に対し、改めて謝意を表する次第である。

平成11年3月

法務総合研究所長

河 内 悠 紀